

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201443		
法人名	株式会社 ブドリ		
事業所名	グループホームゆたんぼ・喜笑 ユニット喜笑		
所在地	長崎県佐世保市吉井町直谷1278-1		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の持つ能力に合わせた介護支援に取り組んでいます。その人らしく、当事業所で役割を持ち、楽しみを持ち、生き活きとした笑顔と喜びのあるホーム生活が送れるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた環境の中に建つ事業所は、利用者が力を最大限に発揮し、地域住民の一員として生活できるよう支援することを理念に掲げている。代表と全職員が一丸となり、利用者に寄り添い会話すること、食を大切にすることが心の豊かさに繋がるとして支援しており、パラエティーに富んだ献立やイベントの多さは特筆すべき点である。利用者が揃って談笑しながらツツむきを行うなど、生き活きとした張り合いのある暮らし振りが窺える。また、リハビリを兼ねたゲーム体操では、元気な笑い声に溢れている。職員の利用者のできることは、無理強いせず見守って待つ支援は理念の具現化である。更に代表は働きやすい職場環境に配慮しており、職員のチームワークも良好である。地域の中に浸透し、職員の笑顔での支援は利用者の笑顔に繋がり、更なるサービス向上が期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し、更に、理念に基づいたケアの具体的な話し合いのもと、実践につなげている	利用者が力を最大限に発揮し、地域住民として暮らせるよう支援を行うことを理念に掲げている。事業所の目に付く各所に掲示し、職員は理解を深め共有しながら実践に繋げている。利用者ができることは、時間がかかっても待つ職員の姿勢に理念の具現化が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃に参加したり、買い物に出かけたりしている。ご近所より農作物をいただいたりし、交流を図っている	町内会の一員として、回覧板を回したり、清掃活動に参加している。食材は地元の商店で購入し、利用者も一緒に近くのコンビニは利用している。中学生の職場体験実習や大正琴やフォークソングのボランティアの受入れがある。近隣住民から野菜やみかんの差し入れも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験の受け入れにより、理解や支援の方法を活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告、話し合いを行っている。意見をいただいた時は事業所として話し合いを行い解決の方へ進めている	例年は奇数月に年6回、規定の参加者で開催しているが、新型コロナ禍のため現在は書面会議である。委員に書面と返信封筒と郵送し、意見等を求め次回の書面にて質問に答え報告している。会議には家族代表が一年交替で参加しているが、他の家族が運営推進会議を知る機会は少ない。	運営推進会議は、事業所の取り組み内容や具体的な課題を話し合い、その意見を運営に活かす貴重な会議である。毎月のお便りなどを通じ家族へ知らせ、更なる理解や協力を得るよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接、出向いたり、電話で相談等を行っている	介護保険の更新認定などの機会に、支所や本庁の窓口に出向いている。電話で情報交換や相談したり、担当課職員の訪問もあり、協力関係を築くよう取り組んでいる。市主催の研修は、現在オンライン利用で、代表と管理者が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを行っている。正しく理解するため、勉強会を行っており、会議でも取り上げ、話し合う機会を設けている。更に、3ヶ月毎に開催している身体的拘束適正化検討委員会でも話し合う機会を設けている	身体拘束適正化のための指針があり、職員に周知を図り、適正化検討委員会を3ヶ月毎に開催し身体拘束のないケアに取り組んでいる。大きな音や声のトーンにも注意し、玄関の施錠も夜間のみである。短時間であっても気分転換に、1人ずつ外や畑に出て、抑圧感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員が学ぶ機会をもち、虐待が見過ごされることがないように注意を払っており、職員全員が防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会でも取り上げ、制度の理解を深めている。知識を持っている者が話をする機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者に十分な説明を行っている。不安や疑問点を尋ね、理解と納得を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望を尋ねる機会がある。話されやすい雰囲気づくりを行っており、意見箱も設置している	家族が日頃から気軽に話せるよう職員自ら声掛けしている。電話を掛ける際は、家族の都合に合わせて時間に配慮し、状況説明や報告を行うと共に利用者が会話を楽しめるよう支援している。新型コロナ禍で面会は、庭で短時間としている。毎月のホーム便りは写真を満載し、日常の様子が把握できると家族に好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を管理者会議にて話し合い、代表者に届けており、直接、話す機会も設けている	職員は業務中で、提案やアイデアを出しており、月一回のスタッフ会議で話し合い、管理者が代表に要望等を伝えている。今年度は要望から大型車輜と大型加湿器を購入している。働きやすい職場環境に配慮し、勤務シフト変更や有給休暇の取得など希望に沿い、働く意欲に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での研修や他の研修にて交流を図り、情報交換も行って、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、奥に隠されている部分も引き出せるよう努力し、安心を得られるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困っていることや不安なこと要望等に耳を傾け、当事業の雰囲気も感じてもらい、笑顔で接し、良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とするサービスを見極める為にも、本人、家族より、より多くの情報を得るようにしており、話しやすい雰囲気づくりも行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支え、支えられる関係で、お互いに学び、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、又は電話連絡、ホーム便りにて、日常生活の状況を報告し、必要に応じ、買い物等の支援を頂き、つながりを大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への外出支援を行っている。外出の際には、馴染みのある地域を通ったり、その目的にてドライブしたり、買い物支援も行っている	利用者基本情報に生活歴や馴染みをまとめ、職員間で情報共有している。家族、知人等の訪問や法事や外食での外出は自由であったが、今年は新型コロナ禍のため、人との接触を避けた個別支援を行っている。本人の自宅近くや行きたい場所へのドライブを支援している他、昔の同僚からの電話など馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や趣味、又、能力を把握し、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事があれば、いつでもと伝えてある。他の施設や入院された場合には面会に行っており、関係性を大切に思っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で、会話や話しかけにより、本人の意向や希望を把握するように努めている	職員は生活歴や習慣を把握し、朝食後テレビ鑑賞などゆっくりした時間に1対1で利用者の思いや気持ちを傾聴している。できる手伝いをもっとしたいなど利用者の思いは、生活記録に記入し職員間で共有している。夜に観たいテレビ番組があれば、就寝時間を変更し、思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、以前にサービスを受けられていたところより、聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、日々、観察を行い、職員間で情報を共有し、現状を把握するように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の介護記録より、本人に現況を把握し、意見やアイデアを反映できるよう努め、本人がより良く暮らすための介護計画作成を行っている	暫定プランは2週間で見直し、利用者や家族の意向に沿った介護計画を作成している。職員はカンファレンスで支援状況を共有し、モニタリングで評価を行っている。変化は赤字で記入し、次の介護計画原案に活用している。利用者の体調や行動に変化に応じ、随時見直している。ただし、支援の根拠となる利用者の思いが固定化している。	支援目標の根拠でもある利用者や家族の思いは個別記録などで確認できるものの、介護計画に反映することで、より本人本位の介護計画となることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に応じた記録を毎日記入し、実践や見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応した支援、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで地域資源の新しい情報を得るようにしており、必要に応じ、協働し、支えて暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、新しい病院先でも事業所との関係を築くように行っており、適切な医療を受けられるよう支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医受診は、職員が同行すると共に眼科や皮膚科など専門医も、適時受診している。緊急時以外は、受診後家族へ報告し情報共有している。検査時は家族に同行を依頼している。週1回訪問看護がある他、夜間急変時は、主治医や訪問看護との連携体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションを契約を結んでいる。週に1回、利用者のバイタルチェック等を行っている。変化や気付いたことを相談し、助言もいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療ができるように病院関係者との情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針や看取りに関する指針に沿って支援している	重度化及び看取りに関する指針と同意書を整備し、利用開始時に説明すると共に同意を得ている。主治医の判断時に、利用者や家族の意思を優先し、重度化や看取りに関する支援に取り組んでいる。職員は、事例をもとに重度化に関する研修を行い、利用者や家族にとって必要なケアについて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全ての職員が受講しており、定期的に再受講も行っている。勉強会でも取り上げ、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の火災訓練により、避難訓練、消火、通報訓練を行っている。また、災害での避難場所への避難訓練も行っている	年2回消防訓練を実施し、夜間想定や消火訓練を行っている。自然災害に関しては、実際避難経路と場所を利用者と共に確認している。地域の防災シート、原発事故発生時の避難訓練など、地域との連携があり情報共有も持っている。利用者ごとの持ち出し備品、名札、備蓄等も整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に考えた声かけや対応をしている。納得され、自己決定しやすい対応を心がけている	職員の表情が、利用者にわかるよう、必ず視線を合わせゆっくり声を掛けることで、本人の人格を尊重した支援に繋がっている。羞恥心に触れる場合は、人目に触れないようさりげなく支援している。個人情報使用及び写真の同意書があり、個人情報は所定の場所にて管理し、職員は守秘義務を理解して個人情報を取り扱っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆったりと対話する機会を設け、その中で思いや希望を聞くことができおり、自己決定できるような声かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休みたいや外出したい、好きなことをしたいなど、一人ひとりペースや希望を天候や体調を見計らいながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の化粧や外出着におしゃれを楽しんでいただけるよう支援している。髪型や普段の身だしなみにも心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを伺ったり、食べたい物を尋ねたりして、皮むきや調理、洗い物など、能力やその日の気分を考えてみて一緒に行っている。又、誕生日やイベント料理で目先の変わった食事にて大変喜ばれている	毎週献立を作成し、毎日各ユニットの利用者の様子を見ながら、嗜好や旬に合わせた調理を行っている。咀嚼や嚥下に配慮した盛付を行い、見た目にも食欲が高まる工夫である。季節行事や誕生日の特別メニュー、焼肉会その他、利用者が食べたいものを前注文する等、食を楽しみ心豊かにする取組みは、利用者に喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた形態や量が摂れるよう支援しており、状態変化も職員間で把握し、バランスよく提供できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を大切に考え、声かけや介助をし、自立に向けた支援を行っている	日中は、トイレで座位による排泄を支援している。排泄支援状況を記録し、スタッフ会議において個別の支援内容を検討している。パッド類の使い方を細かに検討し、利用者の状況をみながら、排泄の自立に努めている。利用者のできることを励ましながら、本人の自信に繋げ、布パンツ使用になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行っている。個々に応じた予防に取り組む話し合いを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康状態や希望に沿って入浴できるよう支援している	週2、3回を目安に入浴支援している。入浴日の体調や気分をみて声掛けを行い、拒否があった場合は無理強いはいしない。シャワーチェアや手すり、補助具を配置し、利用者が安心して入浴できるよう支援している。菖蒲湯など季節の湯を取り入れたり、入浴介助時に利用者とは話をするなど、入浴を楽しみ寛げるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた就寝時間で、好きなテレビ番組等がある時など時間に変更もあり、日中、なるべく活動していただき、空調にも気を配り気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について理解しており、変更の際には職員間で話し合い、変化等の情報の共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、作業手伝い、パズル、編み物や音楽視聴又、気分転換の散歩、ドライブ、買い物と多岐に亘り一人ひとりの支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外食や外出の支援をしている。墓参りも行った。	今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、外出や地域交流を中止している。ただし、感染予防を万全にし、近所の商店に買い物に出掛けたり、周辺を散歩するなど、個別に支援している。また、気分転換にドライブも取り入れている。季節の花見には、みんなで外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今は管理できる方がいないが、使用することができる支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	はがきを出されたり、自ら電話をすることができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や採光、室温、風当たり等、十分に配慮している。野草、花などで季節感を味わってもらい居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や雛人形など飾り、ゆったりとしたリビングでは、全員揃って談笑しながらツツむきを行う様子が窺える。また、リハビリを兼ねたゲーム体操では笑い声が溢れ、ドリルや好きなことを楽しむ利用者もいる。掃除も行き届き清潔であり、除菌加湿機の設置で臭気も無く居心地よく過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にソファを配置しており、そのソファや外景色の見える所やテーブル席で独りになり好きなように過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と家族と相談し、使い慣れた物や好みの物を配置してあり、本人の気持ちがよく安堵される居室空間であるよう工夫している	自宅で使い慣れたベッドや寝具類を持参しており、状態に合わせてリースの電動ベッドを利用する人もいる。椅子やタンスは利用者が動き易い配置である。仏壇やマリア像、家族等の写真や小物の愛用品に囲まれ自宅のようである。モップ掛けができる利用者は自ら掃除し、安心して寛げる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレは名札を表示してあり、ベッドやトイレ、ホールに手すりを配置し、夜間ポータブルトイレも使用し、自立を支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201443		
法人名	株式会社 ブドリ		
事業所名	グループホームゆたんぼ・喜笑 ユニットゆたんぼ		
所在地	長崎県佐世保市吉井町直谷1278-1		
自己評価作成日	令和3年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 3年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個々の持つ能力に合わせた介護支援に取り組み、個々の変化、経過について職員間で常に話し合いを行っております。 ・ご利用者様同士の繋がりも重要と捉え、関係性も重視した取り組みを行っております。 ・ご利用者様が安心して暮らすことができる家庭的な雰囲気のあるホームづくりに努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の能力を最大限に発揮できるように努力している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。神社への奉納にてお餅を持って来られたり、地域のお店に買い物に行ったり、散歩等で交流している。近所の方が畑で採れた野菜を差し入れて下さる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員の方、地域包括支援センター職員の方々に参加していただき、報告や話し合い、意見をいただき、サービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時には直接、出向いたり、電話で情報交換等を行い、関係を築くようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、講習会への参加。社内研修にて理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体的拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1回開催しており、再度、認識するように努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、講習会への参加にて学ぶ機会を得ており、虐待が見過ごされることがないように注意し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習会への参加を行っている。他のユニットでは実際に制度を利用されている利用者もいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は十分な説明を行い同意をいただくようにしている。改定の際は家族への説明を行い理解、納得をいただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気兼ねなく話ができるような雰囲気づくりを心がけている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとのスタッフ会議にての意見、管理者会議を含め、必要に応じては随時、代表に届け、反映させている。(設備や人事異動なども含む)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の性格や得意分野に目を向けて、責任とやりがいが持てるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講習、講演会への参加の機会を与えており力量によって受講を勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、地域ケア会議や研修等への参加にて交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より本人が、今、困っていること不安と 思っていることなど感知するように努めてお り、安心を得られるよう関係作りに努めてい る		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	穏やかで家庭的な雰囲気作りを心がけるこ とで信頼関係を築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」 まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も 含めた対応に努めている	必要とする支援を見極めるためにも話しや すい雰囲気づくりを行い、日頃の様子も伺い ながら意見を反省させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮ら しを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする関係は築けている。共に 作業を行ったり教えてもらいながらの家事作 業もある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人 と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関 係を築いている	家族による外出支援、必要時には病院の付 き添い等、共に本人を支えていく関係を築い ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との 関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室への外出支援を行って いる。外出の際、家の付近を通ることもある。 知人の面会も気兼ねなく来所できるよう対 応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず 利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努 めている	性格や個々の能力を把握し支えあえるよ うな関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や入院された場合には面会に行っている。家族へも相談事があったら気兼ねなく電話いただくよう伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけ、会話の中で本人の意向や希望に沿うように努めてる		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、又、以前サービスを受けられたところなどより話を聞き把握に努めてる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・見守りにて得た情報を共有し、誰もが現状を把握するように努めてる		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、又、以前サービスを受けられたところなどより話を聞き把握に努めてる。関係者と話し合い意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に応じた記録を毎日、記入し見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に対応した支援、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じボランティア等の地域資源を活用し、また協力しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対応していただける協力医療機関があり定期的に訪問診療をしていただいている。また、本人、家族の希望に応じてかかりつけ医の受診の支援を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約を結んでおり訪問看護が週に1回、利用者のバイタルチェック等を行っている。その際、身体の変化や気づきを伝え相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き、又、電話にて情報交換を行っている。かかりつけ医と普段より相談し、そうした場合に備えての関係作りを行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針や看取りに関する指針に沿って支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、救命講習を受講している。社内研修にて、発生時の初期対応の研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年に2回、消防訓練を行っている。そのうち、1回は消防署の指導を受けている。自主監査にて毎日チェックしている。また、非常災害時避難訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや会話での言葉遣いなど十分に注意、配慮しているが、職員間での気づきに反省や見直しを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示、自己決定ができるような声かけや言葉選びをするように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状況によっては安全性を優先して職員のペースになることもあるが、一人ひとりのペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服の購入時やその着用する服を一緒に選んだり馴染みの美容室に行けるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせた準備を行っている。好みや何を欲しているか問いかけを行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して確保できるよう支援しており、状態に応じた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じた声かけや見守り、準備、清潔保持の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを個々に見極め、排泄の声かけや誘導を行い排泄の自立に向けた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄状態を把握し飲食物の工夫にて便秘予防に取り組んでいる。必要に応じ、服薬にてコントロールも行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	あらかじめ、入浴日程を予定しているが体調や希望に対応できるように努めている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は本人に合わせてあり、状況や本人希望により、自室で休息していただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の記録に薬の処方を記録しており、変更も伝達している。服薬の支援を確実にを行い症状の変化の情報共有を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、個人の力を活かした支援を行っている。気分転換等を図り外出や散歩も取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、文化祭やおくんち見学等、外出支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方は所持され使えるように支援している。希望や力に応じ使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の状態に応じて電話をかける機会の支援をしており、手紙のやり取りができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に努め、季節の花を飾ったり、浴室、脱衣室の温度差にも気をつけている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中心に全員のソファを配置している。食卓、玄関に椅子を配置しており、自由に行き来され、思い思いに過ごしていただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や家具を使用していただき愛着のある物を飾ってもらい居心地良く過ごせるように支援している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札、トイレは大きく表示している。又、床にテープを張り、通路をわかりやすくし、それを利用されている。手すりを設置しており、安全かつ自立した生活ができるよう工夫している		